



川越志政会 **栗原 瑞治** 
災害情報の共有 24

問川越市で何度も行った災害派遣の生の情報が共有されていない。派遣職員や企業・関連団体等が見て、肌で感じた被災地の課題等を集積し、共有していくべきでは。

答危機管理監 災害派遣の経験から把握した教訓や課題については、その対策を講じることで、本市が被災した際にはより有効な災害対策となり得ることから、市長を本部長とする災害対策本部を平常時に開催する、あるいは関係機関・団体も参加している川越市防災会議を開催するなどし、これらの場を通じて情報の共有・一元化を図っていききたいと考えている。

☞災害情報の共有



自由・参政・維新の会 **神田 賢志** 
企業誘致の取り組み 26

問今後、市は企業立地をどのように推進していくのか伺う。

答産業観光部長 今年度、実施を予定している市内の空き工場・事業用地・空きオフィス等の調査と事業用物件の取引を行う宅地建物取引業者とのネットワークの構築により、本市への立地希望者とのマッチング体制を強化し、本市の即時的な企業立地の推進に注力していく。

併せて、企業立地奨励金などの企業立地支援制度による市内への立地条件の向上を図るとともに、関係課との連携を図りながら新たな産業用地の創出に向けて取り組んでいく。

☞企業立地推進の取組



無所属 **伊藤 正子** 
全生徒に寄り添う進路選択 28

問昨年の12月議会で教育長から、教育相談等の支援は18歳までは特に大切との発言があったが、令和4年度に卒業し進路未定だった不登校の生徒にはどう支援したのか。

答学校教育部長 卒業した中学校が相談に応じたり、教育センター第一分室（リバーラ）での教育相談を通じて、今後の進路、心身での悩み事、家庭での過ごし方等に対し助言したりするなど、生徒の状況に応じて支援を行ってきた。今後も、こどもたちが、将来に向け、社会的自立をする力を育ていけるよう、一人一人の状況に応じた支援を行っていききたいと考えている。

☞負担軽減と教育の充実 ☞支援と子どもの意見反映



れいわ新選組 **小林 透** 
こども食堂の現状と課題 25

問こども食堂の利用者や運営団体は、こども食堂の現状についてどのように考えているか伺う。

答こども未来部長 川越市社会福祉協議会によると、こども食堂の利用者からは、外食気分を味わうことができる、こども食堂のスタッフには相談できる等の声が寄せられるなど、こどもや親子の居場所や地域の交流の場となっている状況が確認できる。

運営団体からは、寄付物品の運搬や会場の確保に関する意見も寄せられている。



☞こども食堂の現状と支援 ☞子宮頸がんに対する取組



政策フォーラム **高橋 剛** 
川越産野菜を食べて健康に 27

問市民がより多く野菜を摂取し、健康づくりに生かす取り組みをどのように進めるか。

答保健医療部長 食に関する取り組みは、世代ごとに働きかける必要があると認識しており、世代に合わせた取り組みを引き続き進める。また、野菜を取り入れたバランスの良い食事を取ってもらえるよう、生活の中で健康情報を得ることができる仕組みづくりに努める。さらには、関係団体と連携・協力し、地場農産物を生かした調理実習やレシピの作成など、毎日の食事に、より多く野菜を取り入れてもらえるような取り組みを行っていききたいと考えている。

☞川越産野菜で健康づくり



無所属 **川口 啓介** 
災害に備え基金の確保を 29

問財政調整基金残高のほとんどを取り崩して予算編成を行うことが常態化している。不測の事態に備え、一定額は残す方針を示すなど思い切った方法が必要ではないか。

答市長 財政調整基金は不測の事態に備える役割を有することから、一定規模の確保が必要なものと考えており、川越市行財政改革推進計画・アクションプランにおいて、年度末残高を50億円として目標を設定し、計画を進行している。予算編成における財政調整基金の考え方については、今後も引き続き、他の市町村の事例なども参考に検証していく。

☞災害時対応